

「書」の歴史を探ってみよう！

—文字・書くもの・書かれたものの変化を追って—

千葉県船橋市立坪井小学校 鈴木 正人

1. 実施学年及び教科・領域

小学校第6学年 国語科（書写）及び社会科

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

（1）単元名

「書の歴史 ～文字・書くもの・書かれたものの変化を追ってみよう！～」

（2）ねらい

①学習指導要領との関連

○国語〔第5学年及び第6学年〕

2 内容の〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕のうち

(1) ア 伝統的な言語文化に関する事項

(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。

(イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

○社会〔第6学年〕

2 内容の(1)

イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことがわかること。

②単元の目標

○国語（書写）（3時間分）

・日本の文字の歴史について知り、興味・関心を深める。

（書写への関心・意欲・態度）

・文字の歴史について、変遷をもとになぜそれが生じたのかを考える。

（思考・判断）

・行書（くずし字）について、楷書との違いを意識しながら書く。（技能）

・文字の歴史について、時代による変化がわかる。（知識・理解）

・学習をとおして、文字や筆記具の特質を、日常生活で意識しながら書く。

（書写の日常化）

○社会（2時間分）

・歴史博物館へ行き、日本や身近な地域の歴史を調べ、歴史学習への興味・関心をもつ。（社会的事象への関心・意欲・態度）

・日本風の文化が起こったことがわかる。（社会的事象についての知識・理解）

(3) 博物館との関連

①活用方法

来館型活用

②活用資料

- ・第1展示室：鉄剣、木簡、正倉院文書【律令国家】
- ・第2展示室：片仮名の起こり、虚空蔵念踊次第紙背文書、(愚昧記)、古今和歌集、源氏物語【王朝文化】
塵芥集【大名と一揆】
豊臣秀吉朱印状【大航海時代のなかの日本】
- ・第3展示室：商家経営について(美濃屋文書を読む)【都市の時代】
浜浅葉日記【村からみえる「近代」】
- ・第4展示室：死亡診断書【おそれと祈り】
日野商人店内関係文書【くらしと技】
- ・第5展示室：異国船注進飛脚札、学校と寺子屋、討論題集【文明開化】
- ・第6展示室：所在不明徴兵終結未済者名簿【戦争と平和】、
野菜を売る露店(闇市)【戦後の生活革命】
占領軍による検閲されたハガキ【戦後の生活革命】

③参考資料

- ・寺子屋れきはく：テキスト及びワークシート

(4) 指導観

子供たちは、普段の学校の授業で、何気なく板書に書かれた文字をノートに鉛筆で書いている。この日常の当たり前に行っている行為が、実は昔は異なっていたことは臆しながら理解しているが、深く考えたことはおそらくないだろう。

まず、日常を振り返り、昔は「どのような文字を」、「何に」、「何を用いて」記していたのか考えさせたい。おそらく最初は面食らうだろうが、「漢字は中国から伝わってきた」、「ひらがなは漢字からできた」、「昔は筆で書いていた」、「半紙に書いていた」などと列挙するだろう。ここで、「いつ頃」という、歴史的な視点を教師が投げかけることで、子供たちにゆさぶりをかけ、調べる意欲を高めたい。そこで、調べるためには、実際に昔の書かれたもの(文書)を見ることがよいことを認識させ、歴博への見学につなげる。

つぎに、歴博では教師があらかじめ時代毎に数点ピックアップしたものを見学させる。資料からは、厳密にはいつとは断定できないものの、おおよそその変化があった時期がわかる。子供はこの傾向を掴むことで、現在の様態になったのは意外と最近だったことが認識できるだろう。

そして、まとめとしてワークシートから、書の変遷について考えさせる。そこから、始めに触れた何気ない「書く」ということにも、歴史があることをしっかり認識することによって、日常の生活にもつなげていきたい。

本実践は、どちらかといえば、書写や社会科の歴史学習の導入の意図が強い。この学習をとおして、歴史的に物事を考えようとする意識が芽生えるよう、指導したい。

3. 指導計画（5時間扱い）

※評価の観点、国語科（書写）については〈書：観察、関〉、社会科については〈社：ワークシート、知〉のように表記する。

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	<p>○昔の人はどんなもので何に書いていたのだろうか疑問を持つ。</p> <p>・「何を」、「何に」、「どんな筆記具を使った」のかを予想し、ノートにまとめる。</p> <p>○歴博で調べることに際して、歴博の使用方法などのガイダンスを受ける。</p>	<p>□予想ができた子たちには、いつ頃その変化が起きたのかも、合わせて考えさせる。</p> <p>■積極的に意見を出したり、ノートにまとめたりしているか。</p> <p>＜書・社：観察・ノート、関＞</p> <p>□歴博での学習がスムーズにできるように、DVDやパンフレットを効果的に用いる。</p>
展開	3	<p>○書の歴史を調べる。</p> <p>・歴博に行き、ワークシートを用いながら、文字・書かれた物・筆記具について調べる。</p> <p>○寺子屋れきはくも合わせて体験する。</p>	<p>□ワークシートに沿って見学することを伝える。</p> <p>□資料の場所等がわからなくなったら、近くの教師に聞くようにする。</p> <p>■意欲的に見学をし、歴史や文字についての関心をもったか。</p> <p>＜書・社：観察、＞</p> <p>■文字の歴史についての時代ごとの違いがわかったか。</p> <p>＜書：ワークシート、知＞</p> <p>■実際に昔の文字について行書で書くことができたか。</p> <p>＜書：ワークシート、技＞</p>
まとめ	1	<p>○学習したことをまとめる。</p> <p>・歴博で学習したことや感想などを、ワークシートやノートにまとめる。</p>	<p>□教師が補足説明をしながら、ワークシートを埋めるようにする。</p> <p>□できれば、なぜ変化が起きたのかの理由も、考えさせたい。</p> <p>■ひらがな、かたかなの誕生について、日本風の文化が起こったことがわかったか。</p> <p>＜社：ワークシート・ノート、知＞</p> <p>■文字・筆記具・書かれた物について、ワークシートをもとにして、なぜ変化が生じたのか考えることができたか。</p> <p>＜書：ワークシート・ノート、思＞</p>

発 展	時数 配当 外	<p>■ 文字や筆記具の特質を、日常生活で意識しながら書くことができたか。</p> <p style="text-align: right;">＜書：観察、日＞</p>
-----	---------------	--

4. 実践の概要

(1) 導入 2016年4月

※6年生各6学級それぞれで、社会科の最初の授業で行った。本実践とは直接関係ないが、6年生の社会科で学習する内容やその意義を説明した。さらに、そもそも「歴史」とは何かを子供たちに考えさせたのち、本実践の導入に入った。

○「書の歴史って何だろう？」

- ・小学校3年生の既習事項である、「昔の道具とくらし」を想起させたのち、身近なものにも歴史があることについて触れた。そして、今授業で実際に自分たちが使用している鉛筆やノートにも歴史があることについて、「昔の人は、何にどんなもので書いていたのかな？」と発問をした。
- ・子供たちのほとんどが、「そんなの筆に決まっているよ！」と反応したので、「じゃあ、いつ頃からいつ頃までなの？」と追加発問をした。「えっと…」と、わからなそうな表情をしていた。
- ・そして、さらに「何に」「どんな文字を」書いていたのかと、発問した。ここで、「どんな文字」を「何に」「何で」書いていたのかを予想させ、ノートにまとめさせた。変化がある場合は、矢印を用いて書かせた。おおまかには、「漢字からひらがなになっていった」「半紙のようなものを書いていた」と予想できたが、「いつ頃からなのか」というところは、誰もわからなかった。

○「調べるにはどうすればよいのかな？」

- ・実際に調べる方法として、子供たちから「図書室の本で調べる」、「インターネットを使う」などの意見が出た。なかなか「実際のものを見る」という意見は出ず、教師から提示した。子供たちは「そんなのあるの？」という感じだったので、「それらの資料があるところがあります！」と教師が言うと、「あっ、博物館だ！」という声が挙がった。
- ・そして、歴博に言って見学することを伝えて、歴博についての簡単な紹介を行った。

(2) 展開 2016年4月21日(木)

○「書の歴史を調べよう！」

- ・実際に歴博に行き、ワークシートを手がかりに展示を見学させた。
- ・他の引率の教師には、各展示室に分散して児童の質問の対応に当たった。その際には、ワークシートの回答例とそれぞれの展示室のどこに該当資料があるのを示した略図、資料の写真を掲載したものを、持参してもらった。
- ・実際に書く体験をしてもらうため、寺子屋れきはくにも行くように指示をした。
- ・はじめは、どうワークシートに記入すればよいかわからなかった児童も多かった。しかし、教師のアドバイス等で、記入の仕方が一旦理解できると、どんどん進めていくことができた児童が多かった。



子供たちが見学している様子

(3) まとめ 2016年4月

○「わかったことや気づいたことをまとめよう」

- ・ 歴博での見学後、学校でワークシートをもとにまとめさせた。
- ・ 「何で」、「何に」、「どんな文字で」について、ある程度時系列にまとめることができていた。しかしながら、この変遷について他の社会事象（例えば明治の近代化など）とからめて考察した児童はいなかった。
- ・ 学級によっては、その後歴博で学んだことを、新聞にまとめていた。

(4) 児童の感想から

①文字について

- ・ 昔は漢字が多く使われていた。
- ・ 時代によって漢字だけ、ひらがなだけ、両方と色々な種類があったので、見てておもしろかったです。
- ・ 書いているものがどんどん現代に近づいていて、書く物も進化していることがわかった。
- ・ 漢字が少しずつ現代に近づいている。
- ・ つなげ文字など、見たことのない字がたくさんあってびっくりしました。
- ・ 昔の文字は、いまの字に近いことがわかった。
- ・ ほとんどの書き物が、漢字と平仮名で書かれていたことがわかった。

②書く道具、書かれたものについて

- ・ 昔は筆と紙（和紙）を使っていることが多い。
- ・ 始めは鉄で書かれていた。
- ・ 鉄→木→和紙→紙の順で書かれていたと思った。
- ・ いろいろな文字が書いてあって、その文字を寺子屋れきはくなどで学習できて、昔の文字の特徴などがわかって勉強になった。
- ・ 書くことの歴史の中で、紙がそんなに長く使われていることにおどろきました。

③書全体について

- ・ 昔の物などにはほとんどの文字に漢字が使われていて、書く物は墨が多かったが、現代になっていくうちにペンや鉛筆など、今私たちが使うものに近づいてきた。
- ・ 時代が変わるごとに、書く物も書かれる物も文字も違うことがわかりました。
- ・ ほとんど漢字で書かれていて紙に書かれていてほぼ筆で書いてあった。
- ・ 書の歴史についてもっと知って、もっとたくさんのことを調べたいと思いました。

- ・探すのは大変だったけど、昔と今の漢字のちがいや、ほとんどが筆で書かれていることなどいろいろなことがわかった。
- ・日本の書は、時とともに変わっている。

④寺子屋れきはくについて

- ・今と昔の字は、全く違う。今はちゃんときっちり書いているのに対し、昔はなぜかつなげ字になっている。昔の人はこんなに書くのが面倒くさかったのだろうか。このつなげ字だと、けっこう読みにくいと思う。
- ・昔の文字はむずかしいなと思いました。
- ・文字は昔と今では少しちがう。
- ・昔の文字は、変体がなと呼ばれていて、字の形が一つとは限らなかった。
- ・昔は今の字よりもむずかしくて、おどろきました。
- ・昔の子供たちはけっこうむずかしい字を習っていた（字の勉強をしていた）んだなあと思いました。
- ・自分の名前を江戸時代のときの文字で書くと、いつも書いている名前と比べると変な感じがしました。
- ・昔のひらがなは、今よりもたくさんあった。
- ・昔の「は」は、今の「は」や似ていない「は」もあって、びっくりした。
- ・昔の字と今の字では、全然ちがう。昔の方が少しつなげ字になっている。

⑤歴博見学全体について

- ・昔についていろいろ知られてよかった。
- ・また家族と行って、次はゆっくりと見たいと思いました。
- ・とてもおもしろかったので、また行きたい。
- ・一つ一つの時代にはちがった物や文化があるということに感心した。このワークをやって調べたりして、いろいろな時代にどの時代にも技術があることにびっくりした。
- ・昔のひとは高度な技術と高い品質で物を作っていたことがわかった。また見られなかったところは家族と行きたいと思った。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・実践を通して、歴史や書についての関心・意欲が増大した。担任などから聞き取りをした結果、その後の歴史学習や書写の学習に如実に表れていた。
- ・児童の感想からもわかるように、書についての変遷をおおよそ理解できた。これは、やはり教室で教師の説明だけよりも、実際に歴博で見学できたから可能だったと考えられる。
- ・同様に寺子屋れきはくの体験活動も、実際に自分たちで書いてみたからこそ、様々な点を感じることができた。
- ・ワークシートの設問が多かったにもかかわらず、どの児童も意欲的に取り組んでいた。
- ・見学全体を通して、歴博への興味・関心を持つ児童が増えた。

(2) 課題

- ・ワークシートの難易度が高く、どの子も苦戦していた。書き方の例を一つでもワークシートに記しておけばよかった。また、問題が多すぎたので、せめて数を3分の2位にしておけばよかった。
- ・展示替えがあったので、第2展示室の「愚昧記」がなくなっていた。そのため、子供たちが混乱してしまった。事前に、展示替えの有無を把握しておく必要があった。(事前を10日前に行ったにもかかわらず。)
- ・第1展示室の銅鐸を見て、「あっ、絵が描いてある」とつぶやいた児童がいた。今回は、文字に拘ってしまった。「何かを記す」という行為を含めて行えば、文字の有益さにも気づいたかもしれない。
- ・変遷の理由については、まだ歴史学習全体を学習していなかったもので、これを児童から出させるのは、困難であった。中学生以上ならば、既習事項と合わせて考えることが可能ではないだろうか。
- ・書の変遷に主眼を置いてしまったため、なぜ現在は鉛筆・ボールペン・洋紙を使うようになったのか、その理由も考えさせることができれば、より思考が深まったのではないだろうか。
- ・書写の日常化という視点で見ると、なかなかその成果は一概にはわかりかねる。長いスパンで見ていくことが必要であろう。

歴史ワークシート (書の歴史を調べよう)

6年 2組名前 ()

9世紀

番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
展示室	第1展示室	第2展示室	第1展示室	第2展示室	第2展示室	第2展示室	第2展示室	第2展示室	第2展示室	第2展示室
資料名	鉄剣	木簡	正倉院文書	片仮名と平仮名	皇極經世一巻	源氏物語	古今和歌集	源氏物語	源氏物語	豊後清盛朱印状 (刀狩り)
書かれた文字 (漢字、片仮名など)	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	X	漢字	漢字	漢字	漢字
いつ	471年	8世紀末	8世紀前半	10世紀	10世紀	X	11世紀	1488年	1536年	1588年
何で	鉄	木	筆	筆	筆	X	筆	筆	筆	筆
何に	鉄	木	紙	紙	紙	X	紙	紙	紙	紙
その他気づいたこと	今と漢字が全くちがって読みやすい。	何で書いてあるかがわからない。	全部が漢字で書くのが大変そう。	それと形がらう。	漢字のひらがなが多い。	X	字がこまかきうすかたりにしている。	女の人は漢字を使わないう。	字がなご文字になっている。	今は字の書き方が全ちがう。

番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
展示室	第3展示室	第3展示室	第4展示室	第4展示室	第5展示室	第5展示室	第5展示室	第6展示室	第6展示室	第6展示室
資料名	和紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
書かれた文字 (漢字、片仮名など)	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字	漢字
いつ	1865年	1865年	1865年	1885年	1854年	19世紀後半	19世紀後半	1946年	1946年	1946年
何で	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆	筆
何に	和紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙	紙
その他気づいたこと	字が力強い。	おもしろい字がたくさんある。	内容が細く書かれている。	全体的に書いていない。	それ以外の木に書かれている字が多い。	そばんが太く、太き。	漢字が今とはちがう。	人々の食料をもちょうめい。	万年筆がボールペンみたい。	今の漢字と書き方がちがう。

わかったこと、感想
 探すのは大変だけれど、昔と今の漢字のちがい、ほとんどが筆で書かれていることなど
 いろいろなことがわかった。